

平成28年度行政事業レビューシート ( 警察庁 )

<b>事業名</b>	ストーカー行為者に対する精神医学的・心理学的アプローチに係る調査研究			<b>担当部局庁</b>	警察庁生活安全局	<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始年度</b>	平成26年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	平成27年度	<b>担当課室</b>	生活安全企画課	生活安全企画課長 高須 一弘			
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	-			<b>関係する計画、 通知等</b>	「すべての女性が輝く政策パッケージ」(平成26年10月10日すべての女性が輝く社会づくり本部決定)				
<b>主要政策・施策</b>	男女共同参画			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	ストーカー事件は、重大事件に発展するおそれが高く、ストーカー事件の認知件数は、年々増加しているなど、その対策は急務である。そこで、従来のストーカー対策に加え、行為者に対する精神医学的・心理学的アプローチを行い、被害者に対する支配意識・執着心を取り除くと取組を講ずる必要があることから、精神医学的・心理学的的手法について調査研究を行い、被害者等の生命・身体の保護を図ることとする。								
<b>事業概要 (5行程度以内。 別添可)</b>	平成27年度の調査研究は、ストーカー被害者に対する精神医学的・心理学的アプローチに関する調査研究の2箇年目として実施したものである。ストーカー行為者に対するカウンセリング等の精神医学的・心理学的アプローチに関する国内での取組についてヒアリングを実施したほか、諸外国の取り組みについての実態調査及び研究を行った。更には、当該研究結果を基に有識者による検討会を開催し、その結果を報告書として取りまとめた。なお、本調査研究及び有識者検討会は、コンサルティング会社に委託して実施。								
<b>実施方法</b>	委託・請負								
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	<b>予算の 状況</b>	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	11	24	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	11	24	0	0		
	執行額	-	10	23	-	-			
	執行率(%)	-	91%	96%	-	-			
<b>成果目標及び成 果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	ストーカー行為者に対する アプローチの在り方に関する 報告書の作成	報告書数	成果実績	式	-	1	1	-	-
			目標値	式	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>活動指標及び活 動実績 (アウトプット)</b>	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	有識者検討会の開催回数	活動実績	回	-	3	5	-		
		当初見込み	回	-	3	5	-		
<b>単位当たり コスト</b>	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	年間執行額/総事業費	単位当たり コスト	百万円	-	10	23	-		
		計算式	年間執行額/ 開催回数		-	9,564,000/1	22,797,600/1	-	
<b>内訳 (単年度 単位予 算)</b>	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	計	0	0						

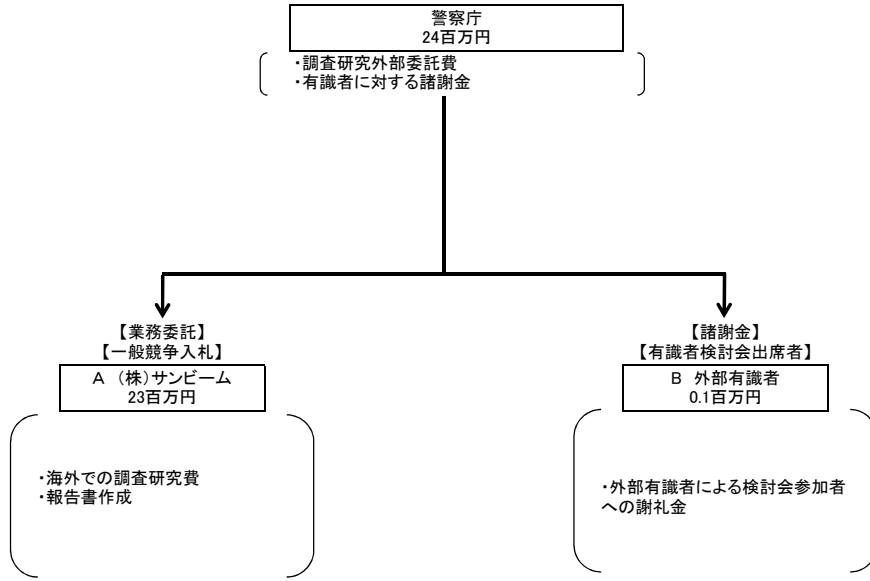
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	市民生活の安全と平穩の確保							
	施策	総合的な犯罪抑止対策の推進							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標年度 年度
		刑法犯認知件数(参考指標)	実績値	件	1,300,308	1,190,844	1,078,637		
		目標値	-	-	-	-			
本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
政策評価における指標の減少の要因を一概に述べることは困難であるものの、今後は本事業の成果により政策評価における指標の減少の一因となり得るものである。									

**事業所管部局による点検・改善**

	項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	ストーカー事案は年々増加しており、また、重大事案へ発展するおそれが高く、その対策は急務である。ストーカー対策については、被害者のみならず行為者に対しても重要であるものの、我が国においては、精神医学的・心理学的なアプローチによるストーカー行為者に対する対策は未実施である。そのため、本事業をもってその有効性を検証し活用することは、更なるストーカー対策を講じることとなり、国民や社会のニーズを的確に反映している。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業については、事業の精度を高めるため事例を一定数確保する必要があり、かつ、対象者は全国で発生したストーカー行為者であることから、警察庁でのみ実施可能となる。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	年々増加しているストーカー事案対策は喫緊の課題であり、被害者対策のみならず、ストーカー行為者に対する対策も必要不可欠であることから政策体系の中における優先度は極めて高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札により支出先を決定しており、競争性は確保されている。	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	より低いコストでの事業の実施が可能となる業者と契約している。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本事業に必要な項目は網羅されている。	
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-			
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	より低いコストで事業が実施できるよう仕様を十分に検討して契約している。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	2箇年度計画の最終年度であり、当該事業を総括した報告書が取りまとめられている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	当初の見込みどおり実施された。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	当該事業による有識者検討会での検討結果及び報告書による結果を基に、平成28年度予算へ反映された。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-		
	所管府省・部局名	事業番号		事業名

点検・改善結果	点検結果	適切な契約方法により競争性は確保されており、当初見込んでいた成果も得られた。			
	改善の方向性	今後、同様の事業を実施する場合には、競争性・透明性の向上を図り、経費の効率化に努めることとする。			
<b>外部有識者の所見</b>					
外部有識者点検対象外					
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>					
終了予定	今後、同様の事業を実施する場合には、競争性を確保した調達を行うなど、執行額の削減に努めること。				
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>					
予定通り終了	今後、同様の事業を実施する場合には、競争性・透明性を確保し、また、経費の効率化に努めることとする。				
<b>備考</b>					
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-
平成25年度	新26-1	平成26年度	新26-1	平成27年度	0005

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位：百万円)

A.(株)サンビーム			B.外部有識者		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	調査研究外部委託	23	諸謝金	有識者検討会委員への謝礼金	0.1
計		23	計		0.1
C.			D.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
E.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
G.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

